

令和3年度 学校評価（最終評価）

徳島県立池田支援学校美馬分校

教育目標	重点目標	活動計画と評価指標		評 価		学校関係者の意見	次年度に残された課題
		活動計画	評価指標	活動計画の実施状況と評価指標の達成度	総合評価(評定)		
1 生徒一人一人に応じた学習や生活する力の向上	<p>生徒一人一人のニーズに応じたキャリア教育の推進</p> <p>【総合支援課】</p> <p>(1) キャリアパスポートを活用した、進路指導を推進する。</p> <p>【教育総務課】</p> <p>(2) ICTを活用した学習活動を推進する。</p>	<p>(1)-1 生徒一人一人のファイルを作成する。</p> <p>(1)-2 年度初めや就業体験後等に、生徒自身が美馬分校版キャリアパスポートの様式に記録する機会を設定する。</p> <p>(1)-3 個人懇談や進路相談等において、キャリアパスポートを活用し、生徒の成長を保護者や関係機関と共有する。</p> <p>(2)-1 ICTを活用した授業を行う。</p> <p>(2)-2 タブレット端末を使用してスライドを作成し、発表する機会を設定する。</p>	<p>(1)-1 年度当初に、生徒全員分のファイルを作成し、配付する。</p> <p>(1)-2 1年生は年度初め、前後期就業体験後、進路相談前の4回、2年生は前後期就業体験後、進路相談前の3回、3年生は就業体験後やサポート会議前の3回程度設定する。</p> <p>(1)-3 年に1回以上、キャリアパスポートを活用し、保護者や関係機関と生徒の進路希望を共有する機会を設定する。</p> <p>(2)-1 タブレット端末等、ICT機器を用いた学習の機会を、週1回以上設定する。</p> <p>(2)-2 年2回の就業体験報告会において、タブレット端末でスライドを作成しての発表を、1年生は1回(後期)、2、3年生は2回(前期、後期)、実施する。</p>	<p>(1)-1 年度当初に、生徒全員分のファイルを作成し、配付した。</p> <p>(1)-2 1年生は年度初め、前後期就業体験後、進路相談前の4回、2年生は前後期就業体験後、進路相談前の3回、3年生は就業体験後やサポート会議前の3回設定した。</p> <p>(1)-3 保護者面談や進路相談などの機会を捉え、キャリアパスポートを活用し、保護者や関係機関と生徒の進路に関する情報を共有する機会を1回以上設定した。</p> <p>(2)-1 タブレット端末を用いた調べ学習やスライドの作成、オンライン学部集会、パソコンでのチラシ作成やホームページの記事作成等、生徒がICT機器を用いた学習を週1回以上実施した。</p> <p>(2)-2 年2回の就業体験報告会において、タブレット端末でスライドを作成しての発表を、1年生は1回(後期)、2、3年生は2回(前期、後期)、実施した。</p>	【A】	<p>生徒・保護者・教員が、面談や進路相談の際にキャリアパスポートを活用した。年間を通じて活用することで、進路に関する学習を深めることができた。自分が必要だと思う資料を、生徒自身がファイリングし、活用する姿も見られた。ICTが身近な学習支援ツールとして、日常の授業の中で活用されるようになった。</p> <p>保護者にとって関心の高い卒業生の進路先の情報を、具体的に広報してほしい。</p> <p>これからも新しいICTの活用を進めていってほしい。</p>	<p>家庭や地域と連携し、実践的な内容を取り入れた教育活動を行うこと。</p> <p>地域の事業所との連携をこれまで以上に深め、教育活動を発信することで、在学中及び卒業後の活躍の場を広げること。</p> <p>進路に関する情報提供の充実を図ること。</p> <p>ICTの活用を促進し、学校の取組を地域に発信すること。</p>
2 教職員の専門性・資質・指導力の向上	<p>人権意識を育てる生徒指導の充実</p> <p>【教育総務課】</p> <p>(1) 自己肯定感を高める授業を実践する。</p> <p>【総合支援課】</p> <p>(2) 自尊感情を育むための教育活動の充実を図る。</p>	<p>(1)-1 生徒自身が作業学習における目標を立てる時間を設定する。</p> <p>(1)-2 生徒自身が立てた目標について、自己評価する時間を設定する。</p> <p>(2)-1 外部講師を招聘し、ポジティブな行動支援等に関する生徒参加型の研修会を実施する。</p> <p>(2)-2 研修会後に、生徒にアンケートを実施する。</p>	<p>(1)-1 各作業学習グループにおいて、年2回以上、生徒自身が目標を立てる時間を設定する。</p> <p>(1)-2 生徒自身が立てた目標について、学年末の自己評価が高くなっている割合が80%以上となる。</p> <p>(2)-1 生徒参加型のポジティブな行動支援等に関する研修会を1回以上実施する。</p> <p>(2)-2 生徒アンケートを実施し、研修会前後の変化について、「自信が持てるようになった」等との回答が80%以上となる。</p>	<p>(1)-1 各作業学習グループにおいて、年2回(前期1回、後期1回)、教員と話し合いながら、生徒自身が目標を立てる時間を設定した。</p> <p>(1)-2 教員と話し合いながら、生徒自身が立てた目標について、学年末の自己評価が高くなった割合は、87.9%だった。</p> <p>(2)-1 香川大学の坂井聡教授を講師に迎え、「特別支援教育におけるポジティブに進める進路指導について」と題し、生徒参加型の研修会を実施した。また、生徒参加型の坂井教授によるコンサルテーションを2回実施した。</p> <p>(2)-2 研修会後に、生徒にアンケートを実施し、「自信が持てるようになった」や「前向き(やる気)になった。」等の回答が85.7%となった。</p>	【A】	<p>生徒自らが、目標に対する評価をする機会を毎時間つくることで、学習に対する意欲が高まった。このことで、「できた」という達成感が得られ、高い自己評価につながった。大学教授から直接講義を受けることができ、生徒にとって貴重な学びの機会となった。わかりやすく具体的な助言が、生徒の自信ややる気につながった。</p> <p>今後も自己肯定感を高め、自尊感情を育むための取組を充実させてほしい。</p> <p>ハードスキルを身に付けることは重要であるが、コミュニケーションなどのソフトスキルの指導も大切にしたい。ソフトスキルを身に付けていることが実際には評価されることが多い。</p>	<p>自己肯定感を高め、自尊感情を育むための取組を、教育活動全体で進めていくこと。</p> <p>生徒一人一人に応じたスキルを身に付けるための指導の充実を図ること。</p>

<p>3 家庭・地域・関係機関との連携・協働をおとした学校づくり</p>	<p>地域と連携した教育活動の推進</p> <p>【高等部】  (1)地域と連携を取りながら、自分たちができる貢献活動を実践する。</p> <p>【学校生活課】  (2)地域と連携した防災活動を実践する。</p>	<p>(1)-1 地域の清掃活動や近隣の福祉施設等との交流活動を行う。</p> <p>(1)-2 近隣の畑を借りて、専門家のアドバイスを受けながら、作業学習（農作業）を実施する。</p> <p>(1)-3 R4年度の全国高校総合体育大会に向けて、高校生活動を計画実施する。</p> <p>(1)-4 活動毎にアンケートを実施する。</p> <p>(2)-1 外部講師を招聘し、地域防災についての研修会を実施する。</p> <p>(2)-2 防災に関することで、地元自治会と交流する機会を設定する。</p> <p>(2)-3 学校の避難訓練時に近隣の住民の方にも呼びかけ、一緒に活動する機会を設定する。</p>	<p>(1)-1 学校周辺地域や、近隣施設の清掃活動、交流活動を年4回以上行う。</p> <p>(1)-2 野菜や花の栽培を行い、収穫した野菜や花を関係機関等に提供する。</p> <p>(1)-3 R3年度に行う活動計画を立て、手作り記念品の製作や地域の方に向けた広報活動を行う。</p> <p>(1)-4 アンケートで活動前後の意識の変化や、取り組みについての意見を吸い上げ、地域貢献活動の課題を明らかにする。</p> <p>(2)-1 地域の防災上の課題について、少人数のグループに分かれ、クイズを解きながら意見交換する。また、疑問点として残ったことや新たに確認したくなったことを、外部講師に質問し、理解を深める。</p> <p>(2)-2 防災に関する知恵や地域の防災上の課題等について、地元自治会の方々に意見を聴き、学んだ内容を掲示することにより共有する。</p> <p>(2)-3 近隣の方々にも参加していただく避難訓練を年に一回は行い、目標の時間内に、目的の場所に避難することができる。</p>	<p>(1)-1 「みまの日」での地域清掃活動2回実施、また、熊谷寺でのお接待活動は2回計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大の為、生徒が直接お寺で活動できたのは1回となった。（1回は生徒作品を納経所に置かせていただいた）  その他に近隣施設「ケアプラザ美馬」「はなのおか」「鴨島病院」とも交流活動を実施した。</p> <p>(1)-2 地元農協や、地域の方の協力をいただきながら野菜や花を栽培した。収穫した野菜や花を、近隣施設「アイリス」「ケアプラザ美馬」「はなのおか」「鴨島病院」「子ども食堂」に提供した。また、地域住民に戸別配付し、喜んでいただいた。</p> <p>(1)-3 PR イベントで配付した小物（お弁当用ゴムバンド100個）や、本大会の記念品（すだち君スプレーボトル500個）を、期限までに製作することができた。  また、広報活動として、「みまカフェ」や野菜の個別配付時に広報チラシと一緒に配ったり、文化祭や作品展でパネル展示を行ったりした。</p> <p>(1)-4 「みまの日」「お接待活動」「ケアプラザ美馬との交流」の活動でアンケート調査を行った。初めての活動で不安のあった生徒も、事後には「やって良かった」と、活動への意欲の向上がみられた。活動後は、参加生徒の98%が「またやっても良い」「やって良かった・ぜひやりたい」と回答した。また、次回の活動への意見も前向きな内容が多く、行事の改善に役立つ調査となった。</p> <p>(2)-1 美馬市企画総務部危機管理課の安達貴志氏を講師に迎え、美馬市を中心とした地域の災害について、過去の事例も紐解きながらお話を伺った。講義後には少人数のグループに分かれ、クイズを解きながら意見交換した。また、学習の最後に、外部講師に質問する中で、災害についての理解を深めることもできた。</p> <p>(2)-2 防災新聞とアンケートを持参し、地元自治会の26軒のお宅を訪問した。過去に地域で起こった災害やその避難場所、災害に備えての準備等について伺うことができた。また、学んだ内容をまとめて校内に掲示することにより、内容を共有することができた。</p> <p>(2)-3 3名の自治会の方々、5名のアイリス職員の方々に参加していただき、消防署の方の御指導の下、目標時間である3分30秒以内に、自転車置き場に避難することができた。起震車体験、体育館での間仕切りの設置、防災備品の活用、発電機の使用等の防災学習もグループ別に行った。体育館の活動では、防災学習を重ねてきた2年生を中心に、運営を進めることもできた。</p>	<p>【A】</p> <p>「みまの日」「お接待活動」「ケアプラザ美馬との交流」全ての活動において、参加した生徒全員がやりがいを感じ、アイデアや意見を多く寄せた。  近所を訪問し防災に関するアンケートをとることや、自治会の方々が避難訓練に参加することは初めての試みであったが、生徒・教員・地域住民が、防災への知識や課題を共有することができた。  これら地域と連携した活動を進めたことで、地域への関心が高まり、自分たちの活動が地域の役に立っているのだと実感できた。地域の方々には、これまで以上に学校の教育活動に関心をもっていただくことができた。  多くの方々が、生徒たちを応援し、教育活動を支援する存在となった。</p> <p>季節の行事、地域の文化や習慣、国の文化等の学習を取り入れてほしい。</p> <p>体験から学び、就職につながる教育活動を行ってほしい。</p> <p>アンケートは、事前・事後にとることにより、妥当性を高めてほしい。教員のスキルやキャリア向上に向け、ルーブリック評価を参考にしてほしい。個々の教員による成果や課題の把握を行ってほしい。</p>	<p>繰り返し地域に出向いていることで、学習の成果が発揮されている。地域との関係づくりができていて、これからも進めていってほしい。</p> <p>地域に認めてもらうために、近隣との関係づくりをお願いしたい。広報・啓発活動等、様々な取組を今後とも継続してほしい。</p> <p>学校にとって、みまカフェが一番の売りだと思う。みまカフェやみまカフェファームについては、今後ともこのような地域の活動をしていってもらいたい。</p> <p>SDGsの取組を、生徒自身が単独でできるよう、これからも継続していってほしい。</p> <p>体験から学び、就職につながる教育活動を行ってほしい。</p> <p>アンケートは、事前・事後にとることにより、妥当性を高めてほしい。教員のスキルやキャリア向上に向け、ルーブリック評価を参考にしてほしい。個々の教員による成果や課題の把握を行ってほしい。</p>	<p>これまで築いた地域との関係を踏まえ、地域に愛され、必要とされる人材を育成すること。</p> <p>地域と連携した教育活動を積極的に広報し、啓発すること。</p> <p>本校ならではの教育活動の在り方を追求し、生徒の活躍の場を広げること。</p> <p>SDGsの取組に関する理解を深め、生徒が自発的に活動するための教育活動を行うこと。</p> <p>国や地域に関する文化・習慣等への興味・関心を高めるための学習を取り入れること。</p> <p>体験的学習活動を多く取り入れ、社会で活躍できる生徒を育成すること。</p> <p>評価を数値化したり、事前・事後で評価を行ったりすることにより、実施する教育活動や研修の妥当性を高めること。</p>
--------------------------------------	--	--	---	---	---	--	---